

郷土の偉人 遺徳しのぶ

伊那市 高遠町 保科正之生誕413年祭

旧高遠藩主、保科正之(1611〜73年)の生誕413年祭が29日、伊那市の高遠町歴史博物館の中庭にある正之像前で行われた。関係者約20人が参列。民に優しい政治をしたとされ、今なお多くの人に慕われる郷土の偉人の遺徳をしのんだ。

正之は3代将軍徳川家光の異母弟。7歳で高遠藩主保科

正光の養子になり、21歳で藩主となった。その後、山形藩、会津藩に転封。41歳で江戸に招かれて、4代将軍家綱の後見人として尽力した。

生誕祭は名君「保科正之公」の大河ドラマをつくる会幹事会が主催。中庭に正之や母親お静の石像を建てた2009年以来、年1回行う。今年から、正之にゆかりのある

福島県会津若松市や猪苗代町の関係者は3年に1回程度の

参列に変えたという。

同会会長の白鳥孝伊那市長

は「正之公ほど素晴らしい方はいない。これからの時代、しっかり見習いながら生きていきたい」とあいさつ。生誕祭後、同会幹事会会長の北

原紀孝さん(81)「同市高遠町

は「ようやく地元でも正之公の存在を分かってもらったところ。より広く功績を知ってもらいたい」と話していた。

この日は猪苗代町にある正之を祭った土津神社氏子会会長の安藤孝一さん(69)も参列。生誕祭に合わせ、同日開いた「高遠町桜大学」で講演も行った。

同会はNHKに正之の大河ドラマ化を求める署名活動などを行っていて、現在、約62万4000人の賛同が寄せられている。(中村理沙)



高遠藩主として活躍した保科正之の像(右)を参拝する参列者